

治ちあつ款地へありく切入られを急よ引と
らん半し叶いも死を一圖は変一りるに茂
光の巨野田因通略い系譜の
長なり明友なりあれを
降をまてめり。初ハ昔りいさりられ後ハ
ハ降系一茂光の巨となり川南を領一当城
を寄護を羽添記十卷曰下治ちあつ田川郡
の産之娘ハ系勝ハ属一後ハ上家へ属
田川郡の内一万二子石をあふ改名對馬と
云く又五し是ハ城後至大川村の佐人とも
あり

一城代

新関因幡云上家と云之下治ちあつ城代の
記なり下氏改易の子細年記未詳なりす
羽添記十し是ハ大梵字改名の案下に略思と改
名のり
新関因幡ハ後増ハよて七子石下され馬上
百騎足軽二百人此新城代として是ハ其
後子細ありて編纂持よなる也の内より
百五十騎と出此城代ハ小玉松津和国城
中を指城ありり。その後志尾津孫ハ希由
利大膳といふもの系勒の事あり伝云く